

2つの『インシャラー』（Inch'Allah） —「アダモロジー」2：歌詩の表象変化に関する考察—

石 渡 利 康

Toshiyasu ISHIWATARI. Un essai sur Salvatore Adamo: Les deux “Inch'Allah” d'Adamo (1966 et 1993): Changement de la façon de voir d'Adamo pendant 27 ans. *Studies in International Relations* Vol. 35, No. 2. February 2015. pp. 21 – 27.

Pas beaucoup de gens connaissent qu'il y a deux versions de la chanson de paix par Salvatore Adamo, “Inch'Allah”. La première version est de 1966 et la deuxième recyclée version est de 1993. La dernière est composée après la poignée de mains historique entre Arafat et Rabin dans le cadre des Accords de Paix d'Oslo, le 20 août 1993. Ce petit essai (Adamology) est une tentative d'examiner pourquoi Adamo a changé son point de vue pendant 27 ans.

1. はじめに－問題の所在－

サルヴァートル・アダモ（Salvatore Adamo）は、シャンソン『雪は降る』（Tombe la neige）でつとに有名な歌手である。彼は、1963年、19才のときにこのシャンソンと『サン・トワ・マ・ミ』（Sans toi ma mie）で世界的に知られる存在となった。その後も数々のヒット曲を出し、1967年を初めとして数年前までは日本にもしばしば訪れていた。

彼の歌は、全て歌詩・作曲とも自らの作品である。シャンソンの「歌詞」はパロール（parole）と呼ばれるが、彼の場合は単なる「歌詞」ではなくて、それ自体「詩」、すなわちポエム（poème）としての完成度と格調をもつと評価されている⁽¹⁾。言語使用の点では邪道だとしても、本論で「歌詩」と表記とするのはそのためである。

本小論は、前稿「サルヴァートル・アダモの“Tombe la neige”－アダモ私論1：「白と黒の心象詩」に関する考察－」と題するアダモロジー（Adamology）、すなわち「アダモ学」に続き、20代初めの『インシャラー』（Inch'Allah）と27年後の改訂版を取り上げて歌詩の表象変化の問題をほんの少しばかり論じる「アダモ私論2」である⁽²⁾。

2. イエルサレム公演と『インシャラー』（Inch'Allah）

まず最初に、『インシャラー』の歌詩とその拙訳を記そう⁽³⁾。通常の文章はともかくとして、詩や詞を訳するときほど詩心のなさを自覚し憂えることはない。拙訳が原詩の韻を踏めず直截的なのは、残念な一言につきる。しかし、ex nihilo nihil fit（無からは何も生じない）のだから、若干意識している稚拙の訳でも無いよりはましであろう。なお番号は記述の都合上、筆者が付したものである。

INCH'ALLAH (1966)

- 1 J'ai vu l'orient dans son écrin
Avec la lune pour bannière
Et je comptais en un quatrain
Chanter au monde sa lumière
- 2 Mais quand j'ai vu Jérusalem
Coquelicot sur un rocher
J'ai entendu un requiem
Quand sur lui je me sis penché

3 Ne vois-tu pas humble chapelle
Toi qui murmures “Pais sur la terre”
Que les oiseaux cachent de leur ailes
Ces lettres de feu “Danger frontière”?

4 Le chemain mene à la fontaine
Tu voudrais bien remplir ton seau
Arrête-toi Marie-Madelaine
Pour eux ton corps ne vaut pas l'eau

Inch'Allah Inch'Allah
Inch'Allah Inch'Allah

5 Et l'olivier pleure son ombre
Sa tendre épouse son amie
Qui repose sur les décombres
Presonière en terre ennemie

6 Sur une epine de barbeles
Le papillon quette la rose
Les gens sont si écerclés
Qu'ils me répudieront si j'ose

7 Dieu de l'enfer ou Dieu du ciel
Toi qui te trouves où bon te sombre
Sur cette terre d'Israël
Il y a des enfants qui tremblent

Inch'Allah Inch'Allah
Inch'Allah Inch'Allah

8 Les femmes tombent sous l'orage
Demain le sang sera lavé
La route est faite de courage
Une femme pour un pavé

9 Mais oui j'ai vue Jérusalem
Coquelicot sur un rocher
J'entends toujours ce requiem
Lorsque sur lui je suis penché

10 Requiem pour six millions d'âmes
Qui n'ont pas leur mousolee de marbre
Et qui malgré le sable infâme
On fait pousser six millions d'arbres

Inch'Allah Inch'Allah
Inch'Allah Inch'Allah

『インシャラー』(1966年)

1 私は宝石箱の中のオリエントを見た
月光が旗を照らす
私は4行詩を作り
月光を世界に向けて歌おうと思った

2 でもイエルサレムで
岩の上のひなげしを見て
その上に身をかがめたとき
レクイエムを聴いた

3 「地に平和を」とささやくうらぶれた礼拝堂
あなたには見えないのか
鳥が羽根で隠している
「危険地帯」の火の文字が

4 その道は泉に至り
あなたは桶を水で一杯にしたい
でも止めなさい マリー・マドレーヌ
彼らにとってあなたの体は、水ほどの価値
もない

インシャラー インシャラー
インシャラー インシャラー

5 オリーブの樹は涙で影を作っている
敵地の捕虜として
残骸の上で休む
やさしい妻や恋人の上に

6 有刺鉄線の上で
蝶がばらの花を見ている
人々は思慮を欠き

私の好きなようにさせてくれない

- 7 地獄の神か天国の神か
あなたは住みいい所に居るようだが
このイスラエルの地では
震えている子供たちがいる

インシャラー インシャラー
インシャラー インシャラー

- 8 女たちは雷雨の中で倒れる
彼女たちの流す血は明日には洗い流されて
しまう
道の一つの敷石は
一人の女の勇気によってできている

- 9 そう、イエルサレムで
岩の上のひなげしを見て
その上に身をかがめたとき
いつもレクイエムを聴いた

- 10 600万人の魂のレクイエムは
大理石の霊廊はもたないが
おぞましい砂地にかかわらず
600万人の樹を芽生えさせた

インシャラー インシャラー
インシャラー インシャラー

1966年8月7日、アダモは最愛の父アントニーノ・アダモ (Antonino Adamo) を天国に送った。悲しみに打ちひしがれ気落ちする彼を励ますかのように、音楽出版のEMI社はアダモの海外公演を企画し実行した⁽⁴⁾。

同年10月に始まった海外での公演は、イラン、トルコ、レバノン、イスラエル、イタリア、スイス、ポルトガルへと続いた。この巡業中のイエルサレムでの惨状を目にして作ったのが、『インシャラー』である。その時、アダモは22才であった。

ギターを手に1日にして完成したこの歌は、素朴な「平和のための歌」(Chanson de paix)、すなわち「反戦歌」(AWS)であり、イスラエルでは

大人気を博した。また、フランスでも8ヵ月にわたりベスト10の地位を保った。『インシャラー』は幾つかの外国語にも訳され、ポルトガルが生んだ「ファドの女王」アマリア・ロドリゲス (Amalia Rodrigues) も好んで歌っていた。

3. 改訂版『インシャラー』

1993年に『インシャラー』は改訂された。改訂版は、1966年版に比べて短くなっており、字句の修正、追加もある。アダモの詩集 *A ceux qui rêvent encore. Les plus belles chansons d'une vie* (2003) に掲載されているのは、この改訂版だけである⁽⁵⁾。改訂版の歌詩は次の通りで、番号は筆者が付したものである。

INCH'ALLAH (1993)

- 1 J'ai vu l'orient dans son écrin
Avec la lune pour bannière
Et Je comptais en un quatrain
Chanter au monde sa lumière
 - 2 Mais quand j'ai vu Jerusalem
Coquelicot sur un rocher
J'ai entendu un Requiem
Quand sur lui je me penché
 - 3 Ne vois-tu pas humble Chapelle
Toi qui murmures paix sur la terre
Que les oiseaux cachent de leurs ailes
Ces lettres de feu: "Danger frontière."
 - 4 Mais voici qu'après tant de haine
Fils d'Ismaël et fils d'Israël
Libèrent d'une main sereine
Une combe dans le ciel
- Inch'Allah Inch'Allah
- 5 Et l'olivier retrouve son ombre
Se tendre épouse son amie

Qui reposait sur les décombres
Prisonnière en terre ennemie

残骸の上に休む
優しい妻や恋人の上に

- 6 Et par dessus les barbelés
Le papillon vole vers la rose
Hier on l'aurait repudié
Mais aujourd'hui, enfin il ose

- 6 有刺鉄線の上で
蝶がばらの方に飛んでいく
昨日は躊躇勝だったが
今日は堂々と羽撃いている

- 7 Requiem pour les millions d'âmes
De ces enfants, ces femmes, ces hommes
Tombes des deux côtés de drame
Assez de sang, Salam, Shalom

- 7 数百万人のレクイエムは
子供たち、女たち、男たちのもの
惨劇の双方の墓
流された多くの血、サラーム、シャローム

Inch'Allha, Inch'Allah

インシャラー インシャラー

『インシャラー』（1993年）

- 1 私は宝石箱の中のオリエントを見た
箱には月光が旗を照らす飾りがあった
私は4行詩を作り
月光を世界に向けて歌おうと思った
- 2 でもイエルサレムで
岩の上のひなげしを見て
その上に身をかがめたとき
レクイエムを聴いた
- 3 「地に平和を」とささやくうらぶれた礼拝堂
あなたは見ないのか
鳥が羽根で隠している
「危険地帯」の火の文字を
- 4 しかし沢山の憎しみの後で
イスマエルの息子たちとイスラエルの娘たち
落ち着いた手で
平和の白い鳩を空に飛ばし自由にする
- インシャラー

- 5 オリーブの樹は涙で影を作っている
敵地の捕虜として

4. 歌詩の分析

最初に、1966年の、いわゆるファースト・ヴァージョンの1番から見ていくことにしよう。L'orienは東洋ではなくて「中東」の概念で使われている。Bannière（旗）がどういう旗なのかは不明である。軍旗ではないし、もしかしたらシナゴグ（ベブライ教の礼拝堂）の旗？とも考えたが、シナゴグに旗はあるのだろうか。

1番は、「月光を世界に向けて歌おうと思った」とあるように、心は高まり上昇的感情が表現されている。

しかし、この心の上昇は、2番によって打ち消される。レクイエムが聞こえたからである。アダモは、「ひなげし」が好きなようである。1974年に“L'île au coquelicot”（『ひなげしの島』）という題名の映画を制作し主演しているくらいである⁽⁶⁾。

3番は、礼拝堂に現実直視を求めている。礼拝堂は心の平和を求めて人々の集まる所であるから、現実を見る必要があるのは建物ではなく人間である。

4番は、生命軽視への批判である。

5番は、死のイメージがおおっている。オリーブの木は、通常平和の象徴であるが、「涙」がそれを覆っている⁽⁷⁾。

6番は、そうした中での自由への願望を表現している。7番の「このイスラエルの地では」は、ア

ダモの生活の地であるベルギーとの比較が根底にある。ベルギーは小国であるが多文化共存国家として成功している。もちろん、詳細に見れば南部と北部の文化差異は存在している。しかし、戦いがあるわけではない⁽⁸⁾。

それに対して、イスラエルは厄介な存在である。英国の二枚舌ならぬ三枚舌で建国されたイスラエルはパレスチナ人を圧政している。イスラエルが全てユダヤ人によって構成されているわけではないが、ユダヤ人は過去に自分たちがヨーロッパで受けた迫害を教訓として生かすことを忘れ切っている。世界の国々で、ユダヤ人に対する好感度が極めて低いのも、故なしとはしないのである⁽⁹⁾。

こうした事情を考慮しながら、アダモが作詩したとは考えられない。アダモは、イエルサレムで震えている子供たちを目にして単純、率直に感じたままを書き記したにちがいない。イスラエルの肩をもっていたとは考えられないのである。

7番の「地獄の神か天国の神か あなたは住みよい所にいるようだが」は、かなり強烈な句である。アダモは、敬虔なカトリック教徒である。変な言い方だが、まるで神を恨んでいるかのようである。しかし、実際はそうではない。カトリック教会側は、そうはとらなかったことから明らかである。一般には、カトリックは、プロテスタントよりも偏狭であると思われているが、事実は違う。

1966年、La vie catolique 誌は、ローマ教皇、キング牧師、ドゴール大統領と並んでアダモを同年で重要な人物として挙げた。アダモは、同年、ジュマップ市の名誉市民となった⁽¹⁰⁾。

8番は、昨日のことを今日は忘れるが、平和は個人の勇気によって支えられることを歌っている。

9番は、2番に対応する現実体験の確認である。

10番の「600万人の魂」とは何を指しているのか⁽¹¹⁾。ホロコーストの犠牲者のことなのか。いずれにしても、死の後に生が再び蘇るのである。

次に、改訂版に移ろう。1993年作のセカンド・ヴァージョンは、ファースト・ヴァージョンの7番、8番、9番がなくなり全部で7番からなる構成である。さらに、ファースト・ヴァージョンの4番、6番、10番のそれぞれの歌詩は、大きく変更

されている。

4番の「イスマエルの息子たち」と「イスラエルの息子たち」とは、何か。ユダヤ人とイスラムでは、イスマエルは全てのアラブ人の先祖である。イスラエルの息子はヤコブの子孫を指している。イスマエルは、アブラハムが女奴隷に生ませた長男である。

大幅に変更されているのは、7番である。「600万人の魂のレクイエム」は「数百万人の魂のレクイエム」に代わっており、600万という確定的数字の使用が避けられている。「惨劇の双方の墓」の双方(deux côtés)とは、イスラエル人とパレスチナ人のことを指していると理解できる⁽¹²⁾。

サラームはアラビア語での平和、シャロームはヘブライ語での平和を意味している。

5. 詩人の心象変化

歌も、時代と無関係には存在しない。日本を例にとってみれば明白である。第2次世界大戦間際・戦中、武勇を讃える多くの歌詞が作られ、作曲された。歌手の多くがそうした歌を歌って戦争に、少なくとも精神的に加担した。

そうした中で、戦争の歌を断固として歌わなかったのは、個人的にも何回かお会いしたことのあるディック・ミネ氏と淡谷のりこさんである。尊敬に値する。アダモの場合も、詩も歌も戦争讃歌とは無縁である。これもまた素晴らしいことである。

欧米で称賛されたアダモの『インシャラー』は、中東・アラブ諸国においては、逆に反感をもって受けとめられた。その背景には、パレスチナの地を奪ったイスラエルへの憎悪が横たわっていたからである。間の悪いことに、1967年に第3次中東戦争(「6日間戦争」)が勃発し、『インシャラー』はプロ・シオニズムの歌とみなされた。それから長い間、このシャンソンはアラブ諸国においては禁歌とされたのであった。

民衆の間での人気は別として、アラブ・中東諸国で公的に解禁された『インシャラー』は、10番からなる1966年版ではなく1993年に改訂された改訂版である。オリジナル版と改訂版との間には、27年の時間が流れていた。この時間は、アダモの

心にどのような動きをもたらし、彼はなぜ歌詩を改訂したのだろうか。

1993年8月20日は、パレスチナ解放機構（PLO）とイスラエルとの間で暫定自治政府原則宣言、俗にいう「オスロ合意」（Oslo Accords）が締結された記念すべき日である。イスラエルを国家として、PLOをパレスチナの自治政府として相互に承認することを骨子とするこの「オスロ合意」の成立に秘密裏に中心として行動したのは、ノルウェー外相のヨーハン・ヨルゲン・ホルスト（Johan Jørgen Holst）であった。

余談だが、ホルスト外相については、ある思い出がある。といっても、直接的ではなく間接的である。ホルスト氏は、元々は学者で1969年から1976年の間は「ノルウェー外交政策研究所」（Norsk Utenrikspolitisk Institutt, NUPI）に属しており、その後政界に転出した。夫人のマリアンネ・ヘイベルグ氏も同研究所の研究員であった。私も当時研究員だったのでよく話をしたが、ある時ホルスト氏のノートを見せてくれたことがあった。小さな字で几帳面に書かれていたのを今でも覚えている。誠実な人柄を偲ばせるものであった。こういう人だから合意を纏めることができたのであろう。激務の結果であろう、ホルスト氏はオスロ合意後長生きできなかった。

アダモが『インシャラー』の改訂版を書いたのは、1993年PLOのアラファト議長とイスラエルのラビン首相が握手をした後であった。おそらく、中東の平和を心に抱きながら改訂をしたのではないかと想像できる⁽¹³⁾。

しかし、アダモがアラブ諸国で公に歌うことができるようになるには、さらに10年の歳月が必要であった。彼が、『インシャラー』をアラブ文化圏で歌えるようになったのは2003年8月15日、チュニジアにおいてであった。そこで開催されたコンサートのプログラムに『インシャラー』を入れることにチュニジア文化相が特別許可を与えたからである。それ以来、アダモとアラブ文化圏諸国との関係は良好である⁽¹⁴⁾。

アダモは、1966年のオリジナルの『インシャラー』を作ったときシオニズム同調者だったのだろうか。彼には、イスラエルに組する政治的意図

は毛頭なく、単に中東情勢に疎かったというのが実情のようである。事実、彼は、1993年に、『ル・ソワール』（Le Soir）紙で、「自らがなしたことを正当化することはできず、イスラエルに対立する側の人々の心の痛みを忘れることはしない」、と語っている⁽¹⁵⁾。

時は流れ、歌手50年を記念しての、クリストフ・デュトワ（Christophe Dutoit）によるインタビュー記事においても、アダモは、「インシャラーを作詩・作曲したときの心情は戦争の悲惨さとフランキズム（独裁主義）反対の意思を描きたかったのだが、パレスチナ人やアラブの人たちの苦悩を理解していなかった」と反省している⁽¹⁶⁾。

6. なぜ Inch'Allah なのか？

『インシャラー』を読み聴いていて、どうしても分らないことがある。それは、なぜインシャラーという言葉を使っているのかという疑問である。私はアラビア語を解さないが、英語表記では Lncha'Allah, InchaAllah などとも使われるようであるが、一般的なのは Inch'Allah である。「アラーの思召しとおりに」といった意味である。フランス語では Si Dieu le veut, イタリア語 Se Dio vuole, 英語訳にすれば If God wills it あるいは God willing であろう。

このように書いても、もちろん各国表記は、言葉の内包を正確に示したものではない。なぜなら、「神」自体の観念は言語に表象される固有の文化によって異なっているからである。

インシャラーは、元来イスラムの人たちが使う言葉である。シャンソン『Inch'Allah』は、イスラエルを主題にして平和を求めている歌詩である。イスラエル国民の約75%はユダヤ人だが、インシャラーを口にするイスラム教信者のアラブ系の人々もいないわけではない。しかし、その数は20%ほどでしかない。イスラエルではアラビア語は公式用語として認められてはいるが、その少数派のイスラムに固有の言葉インシャラーが『インシャラー』で使われている理由は不明であり、調べる必要がある。

7. おわりにー贖罪としての『ザンジバル』と『私の痛ましいオリент』ー

アダモは、2003年に絶望の中に生きる人々を歌った名詩『ザンジバル』(Zanzibar)と『私の痛ましいオリент』(Mon douloureux orient)を出している。次の稿で扱う予定のこれら2つのシャンソンは、圧政された人々への心の共鳴を示すもので、見方によっては、『インシャラー』で誤解をよんだ事実への詩人の心の痛覚かと思わせるのである。

註

- (1) Devos, Raymond: "Mots d'amour, voyage d'amour". (Adamo, Salvatore: A ceux qui rêvent encore. Les plus belles chansons d'une vie, Albin Michel S. A., 2003. pp.11-12.)
- (2) 石渡利康:「サルヴァートル・アダモの“Tombe la neige”ーアダモ私論1:「白と黒の心象詩」に関する考察ー」。『国際関係研究』, 第34巻1号, pp.77-86.
- (3) 歌詩は, Salvatore Adamo: Inch'Allah-Sont-ce os bijoux?-Je vous offre. 1967による。訳出に際しては, <http://kazanuto.blog59.fc2.com/blog-entry1216.html>. 最終確認 2014.06.10をも参照。
- (4) Coljon, Thierry: Adamo. C'est sa vie. Le Felin, 2003. p.91.
- (5) Adamo, Salvatore: op. cit., Albin Michel. 2003, p.190.
- (6) 1974年に『ひなげしの島』を制作主演したアダモは、共演した女優のアネット・ダール (Anette Dahl) との間に1979年娘をなしている。アメリ・アダモ (Amelie Adamo) で認知されている。ちなみに、アダモは、1969年に幼なじみのニコール・デュラン (Nicole Durant) と結婚していた。したがって、アメリは非嫡出子ということになる。(この間の事情については, Coljon, Thierry: op. cit. 2003. p.109.: “Nous Deux”, 2012-12-18)。もっとも、こうした男女間の個人的なことを問題に

したり論じたりするのは、フランス文化圏では野暮の骨頂である。そうした事情を知らながらも、私が個人的な事項に触れたのは、アダモが「善い人間」(gentil garçon) ぶっている偽善の人であると非難する宗教学者のマナヘム・マシナ (Manahem Macina: L' "Inch'Allah" d'Adamo (1966-1993): Rééquilibrage ou recycclage ialamiquement correct? (<http://www.debriefing.org/26248.html> 最終確認 2014.06.23)) へ反論し、アダモが何も聖人君子ではなく極めて普通の人間であることを強調したかったからである。

- (7) オリーブの木の象徴性については、ジーン・クーパー:『シンボリズム 象徴の比較文化』(日下洋右, 白井義昭訳), 彩流社, 1987年, 69頁。
- (8) ベルギーは、南部と北部での言語相違を基礎にして連邦制を採用している。
- (9) これについては、石渡利康:「「虚と」と「実」の相関幻想ー虚と実の諸相とその周辺問題ー」, 日本情報ディレクトリ学会誌, Volume 12, 2014, p.66.
- (10) La vie catolique, クリスマス号における referendum による。
- (11) ユダヤ人に対するホロコースト犠牲者の数に関しては、諸説がある。俗に総数600万人といわれることもある。600万の「6」という数字は、その数自体を除く数の約数の和がその全体に等しい最初の数であるため、様々な意味を付せられる。
- (12) 上記註6のマナヘム・マシナは、「どこに何百万人のパレスチナ人の墓が存在しているか?」と云って疑義を提している。
- (13) Salvatore Adamo-Inch'Allah. lyrics paroles in: french, english, italian, spanish (<http://digilander.libero.it/davidecosta/Salvatore-Adamo-Inch-Allah.htm> 最終確認 2014.06.14)
- (14) RFI/Musique.6 novembre (le site) 3003.
- (15) Le Soir.27 octobre 1993.
- (16) La Gryère (<http://www.bloglagrruyere.ch/2013/12/04/salvatore-adamo-cinquante-ans-dune-carier...> 最終確認 2014.06.09)